

急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあふく面白い
いろんな人がいるのが楽しい

No. 671
2024年1月 月刊

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- | | |
|------------------|----|
| ● 『民藝の心』 | 2 |
| ● 「土と内臓」ほか | 7 |
| ● お便りから | 11 |
| ● 山仕事(12月、大平) | 19 |
| ● 能登地震、原発は? | 22 |
| ● 欠陥オスプレイ買う 暗愚政治 | 23 |
| ● け・い・じ・ば・ん | 24 |



泉ゆきを「じはいつか山頭火」
(日本習字普及協会)

1月7日現在の
会員数205名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を

郵便局で 10540-52760981
(鈴木厚正の口座)
へ 振り込んで下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 敬 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は 絵本の世界

山仕事(12月、大平)^{おいだいら}

12月22日(金)晴。今年最後の山仕事。康江さんが膝痛で前日にドタキャン。伊藤恵一郎さんもインフルエンザで直前にダウン。厨房は久米さんの肩にかかるので、メニューを減らしてください。

天浜線敷地駅で正士、久米、若林さん迎えられ、揃って深澤明男・富士代さんの豊田農園へ。今回もミカンをどっさりいただいた。ありがとうございます。

以前、旧豊田村にはミカン農家が存在しなかった。明男さんとお父さんが同県由比町から当地に来て、隣の市川祐一さん(茶農家、故人)から山林を譲り受け、開拓。立派なミカン園に仕上げた。当初は販売に苦しみ、近くのゴルフ場に売り込みに行ったり、ミカンの樹のオーナー制度をつくるなど苦勞をされた。ぼくも20年近く前に一度、お宅に泊めてもらい、幼果の摘果見習いをしたことがある。ナギナタカヤを下草として育て、雑草の抑制と倒伏後肥料化するなど工夫を凝らし、単に甘だけでなく甘・酸相和した味の良さを顧客が増加。不作の昨年など注文を断ねるのに大変だったとのこと。

旧豊田村の住民からみると移住者だが、誠実な人物で信頼があつて、農産物直売所「とよおか」とれたて元々村」の村長を務めるなど、地域で欠かせぬ存在となっている。福島・飯舘村とは震災以前から交流があり、大震災のときは米など援助物資を持って駆けつけることもしている。

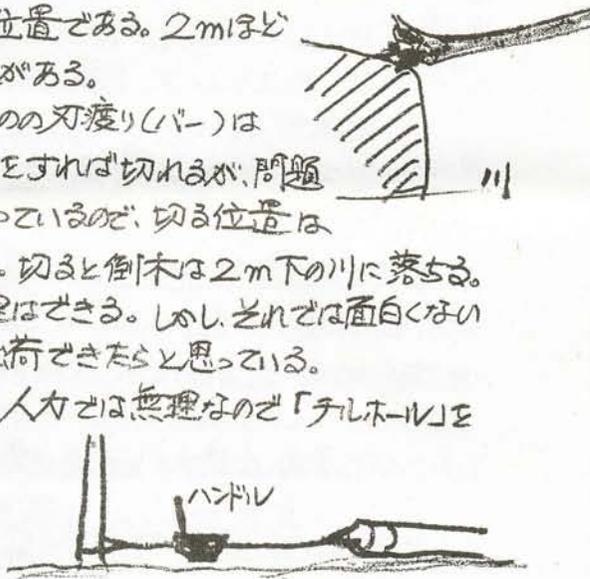


深澤さんにお礼を言い、二組に分かれる。久米、原田、山崎、若林さんは買物へ。正士さんとぼくはお宅へ行く途中、新田橋の倒木の状況を見る。敷地川の流れをまたいで対岸のスギ林にもたれかかっている。

坂を下りて倒木のそばに行く。ロープを使って木さを計ってみると周囲が約210cm。直径は70cm前後だ。予想外だったのは倒木の位置である。2mほどの高さではほぼ垂直の崖の際に引っかかるように根がある。

正士さんちに6台あるチェーンのうち大きいものの刃渡り(バー)は40cm。とても反対側まで届かない。押し切りをすれば切れるが、問題は切る位置だ。根の子が崖の先端に引っかかっているのが、切る位置は川の上になる。当然、脚立にのって切ることになる。切ると倒木は2m下の川に落ちる。そのまま人手で動かせるほどに切り縮めれば処理はできる。しかし、それでは面白くない。正士さんはできればほかに何本か伐って出荷できたらと思っている。

それには、崖の上に引き上げなければならぬ。人力では無理なので「チルト-IV」を使うことになる。チルト-IVについては水野俊哲さん(信州・上田市)に説明してもらえばよいが、ざっと説明する。チルト-IVはフランス海軍が開発



したという器具。動力を使わずに大きな牽引力を發揮する。前ページの図のように、根付けする木と引く木をワイヤで結び、その中間に入れた器具のハンドルを前後に動かして少しずつ引く。

そこで、倒木の重さを推測した。正士さんが計算した枝積にスギの比重(0.5と仮定)を掛けて約2トン。枝葉を含めると、およそ3トンとみた。2台あるチホルの大きい方の力が3トン。これが平坦地で引くのならなんと引ける。その場合も至らぬ男が2人がかりでハンドルを操作する必要がある。

ところがこの倒木は、切断するとまちがいなく2mの崖下に落ちる。それをどうやって引き上げるか。



近くの立木に滑車をとりつけ、倒木を上へ引き上げながら引くことになる。その位置関係は左のようになる。この状態で引

きながら切断すると、倒木は滑車をとり付けた立木の側に寄って落ちるだろう。その場合、倒木は崖の上端から数十cm下がったところにぶら下がることになる。これを引き上げようとするとは倒木は崖のアゴに引かかかって上がってこないだろう。

そこで、断念することにした。あとになって考えると、引かかるところの崖を掘るとか、チホルの根付けの位置を変えとか、いったん4mの長さに切って軽くするとか、いくつかやり方があると思ったが。

あとの処理は、農林事務所がやってくれようというので、よしとした。

買物組の帰りを待ち、原田、山崎、若林さんと4人で^{いん}家田の田んぼ畔の草刈り。正士さんは残ってソバ打ちのあと、お母さんと石坂医院へ。

又米さんと、作業を終えた原田さんが手伝った夕食は、お母さんと一緒に。

ビシヤウの刺身、又米さんが育てた冬至カボチャの炒め煮、野菜たっぷりのチキンスープ、エシャレット、白菜の豚肉炒め、原田さんからの野沢菜、山崎さんの子持高菜、なます。それに正士さんの手打ちそばを又米さんのお返しとだしていただく。

20時頃、子息の啓史さんが到着。皆と話合おうと正士さんが呼んでくれたのだ。回を重ねると困さがとれ、いろいろ話し合うことができてよかった。

啓史さん退席後、正士さんから受診結果を話してくれた。体重は変わらず、食欲はある。一方、徐々に体力が低下し、ふらつきこともある。毎年大晦日に向けて100kgほどそばを打ち、友人、知人に送っていたが、今年はやめるといふ。なんとか、来年も現状維持が続いてほしい。

この夜、原田、山崎さんとお母さんで帰る。

12月23日(土)、晴。早朝、京都の前田さん一家(夫妻と男児2名)が車とばして到着。

竹中さんも加わり、男6名でツツジ畑の草刈り。アツとゆう間に終る。

続いて、東垂ルツツジ園の整理。お茶の整枝機、剪定鋏、鋸、鎌、鉋と総動員。3mほどに伸びジャングル化したツツジを、大胆に刈り込む。昼食では、久米さんと前田知美さんが調理。

(昼)卵とビワカメうどん、昆布のゴボウまき、前田さんの大根糠漬け、リンゴとサツマイモのバター煮。

午後もツツジ園の整理。15時のおやつは、伊藤和代さんからパンと共に送られてきたシトリンをいただく。

作業は、手元が見えにくいワ時まであかして終る。

夕食は、お母さん、青山さんに岡本信子さんが参加。岡本さんは元静岡県庁職員、農業改良普及員を務め、退職後は県の農業者大学校の講師も。毎年、手製のシシユースを下さった。

(夕)牛すき煮、ゆめ風スープ、きんぴらゴボウ、前田さんのキムチ、ビンチョウのあら煮、岡本さん手製のスモークハム、山崎さんの子持高菜漬け、原田さんの野沢菜漬けに正士さんのおそば。

食後も、内田美智子さんからのお饅頭を頼る正士さんを見て「ハビがカエルを呑みこむように食べる」と前田さん。

前田聡さんはカヌーリスト、知美(ともみ)さんは細身だがトライアスロンや100kmマラソンの経験者。子育てもアウトドア派で、7歳の子はナイフを持ち自分で研ぐ。4歳の子も活発だ。今回、庭で天幕泊のつもりだったが、寒いのでゲストルーム(囲炉裏のある部屋)で寝る。原田、山崎さんとぼくは4人で。

12月24日(日)晴。皆々ツツジ園の続き、ぼく一人、家のまわりの草刈り。リッパこの日、観たいテレビがあった。ぼくが好きなテレビスポーツの三大イベントは、正月の箱根駅伝、夏の終りの「高人間コンテスト」、そして暮れの京都で行われる全国高校駅伝。なにしろ、女子高生がとつか之みか之走るのだからたまらない。また、山ちゃんにイジられるだるうけど。

(昼)定番のカレー。ごはんではなく和代さんからの食パンと。リンゴサラダと南瓜煮。また来年と、敷地駅で正士、久米、竹中、若林さんに見送られ、帰宅。

今回も次の差入れをいただきました。感謝。

- ・伊藤和代さん(下関)から食パン、菓子パン、シトリン
- ・内田美智子さん(埼玉・川越市)から白饅頭
- ・袴田克己さんからタコ
- ・青山さんからシシユース
- ・竹中さんから甘塩とカボス
- ・伊藤康江さんから山形・大豆トランスの納豆
- ・若林さんから「かのこ豆」(小豆の甘露)を。若林さんはシャツや枕カバーの洗濯もしてくれています。

新年は、1月9~11日、元気で続けられますように。